

先行事例調査の取りまとめ

1 先行事例調査対象地選定の考え方

- 先行事例はワークショップでの活用に留意し、文献調査では把握しきれない活動プロセス等に着目し調査を行った。
- そこで、以下の観点から対象地を選定し、先行事例調査を実施した。

先行事例調査対象地の選定の観点

観点①活動プロセスを把握することが可能

- ・「元気再生」「新たな公」等の事業に採択されている、あるいは集落代表者アンケートにおいて、集落元気づくりの取り組みが既に行われており、活動・事業が進行中である

観点②集落規模での活動を対象とし、ワークショップへの活用が可能

- ・ 集落規模での活動であり、集落支援への効果が見込める
- ・ ワorkshopを行う中山間地域への適用が見込める

観点③集落元気づくりを行う上で参考となる複数の課題に対応

- ・ 「安心」、「元気再生」、「外部支援の有効性」など、「集落元気づくり」に有効な課題を複数有している

観点④先行事例を実施している主体の協力意向

- ・ 平成19年度NPOアンケート調査における協力意向があることや、今後の集落支援活動に対し協力していただける

1) 先行事例調査の取りまとめ

- 先行事例は「集落元気づくり」の取り組み実現に資する外部支援の事例を抽出・整理した。
- 取りまとめは活動の課題(きっかけ)、活動経緯の把握、外部支援体制や集落元気づくり実現に支援内容に着目した。

先行事例取りまとめの視点

視点① 活動の課題(きっかけ)

- 集落元気づくり活動を開始するきっかけとなった出来事(課題)を明らかにした。
 - ・ 活用した資源、軽減した不安について

視点② 活動の経緯(プロセス)

- 活動経緯を活動開始から現在に至るまで主要項目について整理した。
 - ・ 支援の時期とそれによる活動への変化・影響について

視点③ 外部支援の体制及び内容

- 活動を実施する上での外部との関わり、支援の受け方(支援体制)について整理した。
 - ・ 外部支援団体の組織構成と支援項目について

視点④ 取組成果

- 活動を行った事による集落の変化や成果を整理した。
 - ・ 活動を実施した事による効果(資源活用や不安軽減効果の他、コミュニティの活動への合意形成等)

事例-1 「集落連携により都市農村交流を実施している事例」

あまりだに 大分県宇佐市院内町余谷地区栗山集落

◇聞取調査日：平成21年2月17日

■集落の現況

- 地区全体で138世帯、農業に利用する水系毎に集落が9つあり、栗山集落はその一つ。農地の多くが棚田等の山地に位置する。

■集落の課題(活動のきっかけ)

- 従事者の高齢化や担い手不足により、水路、棚田の維持が困難となりつつあった。

■活動経緯

平成12年
9つの集落が連携し
「余谷21世紀委員会」設立



平成14年より
大分市の高崎団地で、
年2回のイベントに参加



平成20年
地区内に農産物直販所
と農業法人設立

■外部からの支援内容

- 県の中山間地活性化モデル地区に選ばれ、県から有識者派遣
- 大分大学から年間6回、1回50人の農業体験実習を受入開始

- イベントでの米、野菜等の産品販売、もちつき等開催
- 大分市内の弁当業者への米の卸販売
- 伝統芸能披露
- 農業体験ツアー受入

- 地域収穫米使用のオリジナルブランドの焼酎作り
- 高齢者世帯等の農作業の請負開始



右:21世委員会会長 小田氏
左:栗山集落 真田氏



大分大学の農業体験実習*



田植交流会 *



高崎団地でのイベント *



オリジナルブランド焼酎
「余谷物語」



農産物直売所「ひまわり」

■取組成果

- 大分大学の農業体験受入時の講師料、米野菜の産直販売、焼酎販売等の収入は、自立した集落主体の活動を可能とした。
- 農業体験受入、団地でのイベント参加等の外部との交流は、集落の楽しみとなり、集落が活性化した。
- 外部からの援農活動と農業法人設立により棚田維持が見込める。

*の写真は「余谷21世紀委員会」のWebページ<http://www1.ocn.ne.jp/~amari21/index.html>より

事例-2 「都市NPOと協力して都市農村交流を実施している事例」

だいさか ながたに
鹿児島県南さつま市金峰町大坂地区長谷集落

◇聞取調査日：平成21年2月18日

■集落の現況

- 鹿児島市に隣接する急峻な中山間地域に位置し、農地は棚田等の山地に点在、高齢化率が60%を超える。

■集落の課題(活動のきっかけ)

- 昭和中期まで錫の採掘・製錬で栄えたが、鉱山廃業と共に過疎化が進行し、集落の維持が困難となった。

■活動経緯

数年前
 地区ゆかりの塩入氏が
 長谷集落の環境整備開始

■外部からの支援内容

- 町の補助で錫山遊歩道設置
- 集落住人の寄付により「ちごの滝」に水車設置



左：塩入氏 中：集落区長 丸田氏
 右：環境整備を始めた塩入氏



ちごの滝の横に
 設置された水車

平成18年
 NPOとの出会い、
 そして支援開始

- NPO法人プロジェクト南からの潮流が支援開始
- 集落住民が気軽に集まれる交流館設置
- 「ちごの滝」展望所設置



ちごの滝村交流館



ちごの滝

平成20年
 「新たな公」に採択

- 県道・国道の主要ポイントへ手作り道標設置中
- 都市住民との交流の中核であり、新産業となる登り窯建設中



作成中の道標



建設中の登り窯

■取組成果

- 環境整備が進むにつれ、見学ツアーの来訪やマスコミの取材が増え、集落の高齢者が生き生きとしてきた。
- 登り窯の活用により、独自の活動資金の捻出が見込める。
- 「新たな公」事業を利用し、近隣3集落が連携した新しい取組を検討している。

事例-3 「他出した集落出身者の親睦会による集落支援事例」

鹿児島県出水市平岩集落

■集落の現況

◇聞取調査日：平成21年2月19日

- さつま町との市境の山地に位置し、最盛期は農林業が中心に40数世帯200人余りが居住したが、現在は集落全体で4世帯6人。

■集落の課題(活動のきっかけ)

- 集落の小規模化が進み、生活道路、棚田、水路の維持補修が困難となった。

■活動経緯

平成13年頃
「紫峰会」を結成

■外部からの支援内容

- 出水市の集落出身者90人くらいで、親睦会である「紫峰会」を結成し、集落住民と共に忘年会を開催

平成15年頃
他出者による道路清掃
集落に桜を植樹

- 年2回「紫峰会」のメンバー30人で集落の道路の草払い
- 集落倉庫の前の耕作放棄地に「紫峰会」で桜を植樹

平成19年
集落で花見を開催

- 集落倉庫前の開花した桜で花見
- 将来的に耕作放棄地に花木植樹の計画あり

■取組成果

- 集落出身者が外部で結束し、集落支援を行うことで、集落住民の集落存続・維持活動が活発化した。
- 現在、「紫峰会」の活動をベースに、集落存続・維持に向けた周辺3集落の集まりを中学校区で形成中である。



左：紫峰会会長 竹之下氏
右：平岩集落 執印氏



集落内の空き家



耕作放棄地に植樹された桜



将来花木植樹予定の棚田



鹿対策の柵のある
執印氏の畑



集落内の緊急避難所

事例-4 「集落がNPO法人を設立し、環境整備・都市交流を実施している事例」 佐賀県基山町宮浦地区

◇聞取調査日：平成21年1月22日

■集落の現況

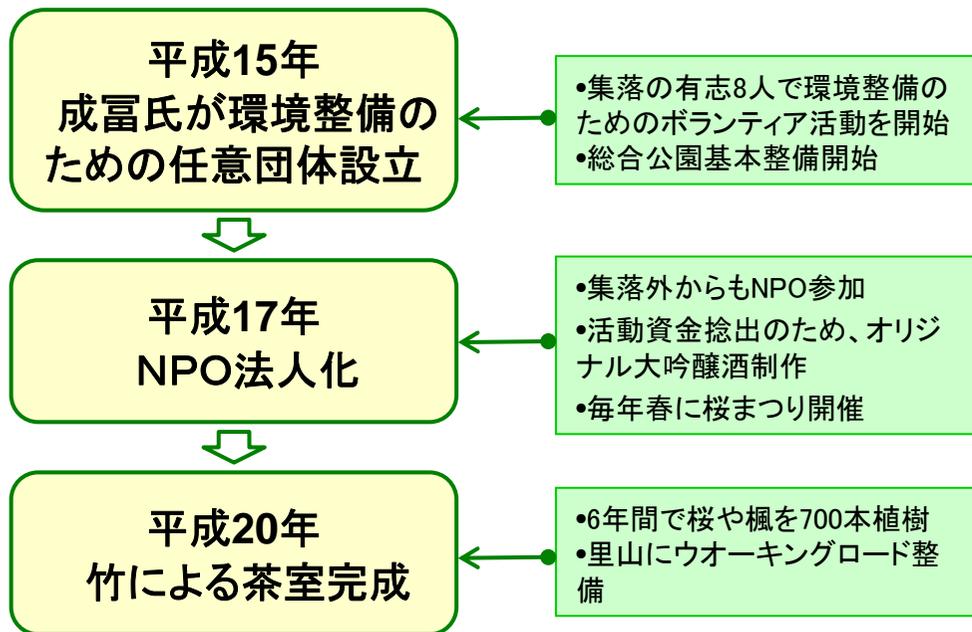
- 集落の世帯数は14世帯、過半数が70歳以上である。福岡への通勤圏であり、住宅団地も近接している。

■集落の課題(活動のきっかけ)

- 農林業従事者の高齢化や担い手不足により耕作放棄地が増加、また、孟宗竹による山地の荒廃が進んでいた。

■活動経緯

■外部からの支援内容



幼稚園児の筍堀体験の様子



* 2008年桜祭りの様子 *



オリジナルブランドの清酒「きびつとの杜」



メンバーが建設した竹の茶室



右奥：事務局 近松氏
右手前：理事長 成富氏



集落入口にある全体案内図

■取組成果

- NPO法人化した結果、集落居住者以外の広範囲からのボランティア参加と交流人口の獲得が可能となった。
- 地域特産品や清酒を販売し、活動経費を捻出できたため、継続的な活動を行え、環境整備が進んだ。

* の写真は「きびつとの杜」のWebページ <http://kibit.kiyamatown.com/> より

事例-5 「地元大学の支援による高齢者等の災害緊急避難事例」

熊本県山都町菅地区

■集落の現況

- 中山間地域に位置し、94世帯234人の住民の約半数が65歳以上の高齢者である。

■集落の課題(活動のきっかけ)

- がけ崩れや土石流などの自然災害時における高齢者の避難支援や救助が課題であった。

■活動経緯

平成20年10月
防災まちあるき開催
(防災点検)



平成20年11月
災害の現状認識を
共有後意見交換開催



平成20年12月
コミュニティバスを
用いた合同避難訓練

■外部からの支援内容

- 熊本大学の支援で「第1回防災まちあるき」、他地域の災害事例の紹介、災害時の不安や避難の相談をする人などについての話し合い

- 「災害対策と地域活動に関するアンケート調査」
- 自主避難訓練についての説明
- 災害時に住民と行政それぞれが互いに期待することについての意見交換

- 自主避難の決定
- コミュニティバスを利用して、他地区への合同避難訓練

■取組成果

- 過去に土砂災害があった場所や、今後土砂災害が起こる危険性が高い場所6箇所を確認できた。
- 災害時の避難連絡の方法や、具体的な避難方法が検証できた。



ワークショップの様子



防災まちあるきの様子



菅地区土砂災害
危険箇所MAP



自主避難に関する協議



コミュニティバスによる
避難訓練



自主避難の様子

1) 先行事例集(知恵袋集)の取りまとめ

目的:

知恵袋集は集落元気づくりを行う上で、集落特有の課題を解決するための知識や技の蓄積を図り、個々の集落に顕在化するニーズ(不安の解消)に合わせた集落元気づくりを進めるツールとして活用する。

用途に応じた検索項目

- 集落元気づくりの①分野による検索
(例えば、分野「鳥獣被害対策」→活用資源「食肉」を実施)から、先行事例を絞り込む
- 集落元気づくりの④支援制度による検索
(例えば、補助事業「新たな公」を用いた→集落支援を行っている「NPO」の抽出)

相互
検索
可能

検索キーワードの充実化

- 集落元気づくりへ活用しやすいよう、先行事例のキーワードは集落に関連するものを選んだ。
- ①事例の分野: 集落の暮らしの不安項目
- ②集落の資源(活用資源): 活用したい資源から検索(集落アンケート回答を参考)

①事例の分野と内容

○先行事例が取り組む課題及びその内容

コミュニティ対策、鳥獣被害対策、山林・田畑の管理、店舗の対策、雇用の不安解消、足の便の確保、災害への不安解消、医療福祉対策

②集落支援の形態

○集落元気づくりの支援体制

行政、事業者、集落連携、他出者、大学、NPO、その他住民団体

③活用資源

○集落元気づくり実施で利用している集落資源

農作物、魚介類、山菜、果樹、食肉、加工品
耕作放棄地、空き家、廃校、自然景観、寺社・祠
祭り、伝統文化、芸能、文化財、風習

④支援項目

○集落元気づくり実施にあたって受けている人材・組織、技術、費用(わかれば支援額)

「人材・組織」: 支援者、支援団体名
「モノ」: 補助事業者、補助主体、採択年月日
「技術」: 適用している技術

⑤地域分類

○事例が対象とする地域分類と具体的事例対象地の名称

中山間地域、離島、半島、中心市街地
県名、市町村名、九州内・外

2) 先行事例集(知恵袋集)の取りまとめ

用途に応じた検索(例)

① 集落元気づくりの分野による検索

例えば、分野「鳥獣被害防止」を→人材組織
区分「行政」が実施している活動を抽出

① 事例の分野と内容

○ 鳥獣被害止を選択

② 集落支援の形態

○ 行政を選択

知 恵 袋 集

事例コード 036

大分類 国土保全

小分類 鳥獣被害防止

内容 公務員ハンター

説明 高知県香美市では鳥獣被害に対するハンター不足が深刻なため、2008年免許を持つ職員3人による「鳥獣被害対策実施隊」を発足(1人は昨年、免許を取得したばかり)した。

細 鳥獣被害対策実施隊は香美市職員(市長が任命した職員)で結成し、捕獲、被害防止策の普及啓発等、市内の被害対策についての取り組みを進めるとともに、香美郷友会と連携して捕獲を行う。また、ニホンジカ、イノシシについては、阿佐地域鳥獣被害防止広域対策協議会と連携して、食肉としての活用を目指す。なお、食肉として加工、販売する場合は、食品衛生法、シカ肉処理ガイドライン(平成20年度制定予定)に準じた食肉を使用するものとする。

富山県魚津市でも、鳥獣被害に対するハンター不足が深刻なため、「魚津市鳥獣被害防止計画」において職員をハンターとして養成することを策定し、2008年11月現在消防署員ら20~50歳代の9人の職員が免許取得を目指している。また、市として補助金を利用しての猟銃の購入も予定。

人材・組織区分 行政

人材・組織名称 香美市

事業区分 市

事業内容 鳥獣被害対策実施隊 事業年度平成20年度~平成22年度

技術内容 鳥獣駆除技術

集落資産・資源1 鳥獣 集落資産・資源2

集落資産・資源3 集落資産・資源4

集落資産・資源5

九州内外 外 地域分類 中山間地域

都道府県 高知県 市町村 香美市

文献名

URL http://www.city.kami.kochi.jp/pdf/92987_01.pdf

画像ファイル名

キーワードによる検索

② 集落元気づくりの補助事業

例えば、「新たな公」を用いた→NPO支援
団体活動の抽出

② 集落支援の形態

○ NPOを選択

① 事業内容

○ 新たな公を選択

知 恵 袋 集

事例コード 002

大分類 コミュニティ・交流

小分類 都市交流

内容 都市NPOの協力による都市農村交流

説明 金峰町大坂地区長谷集落においては、NPO法人と地域住民が都市住民との交流事業を中心とした共生協働事業に取り組んでいる。

細 ■地区内の高齢化率が60%を超える地域で地域コミュニティの維持・存続が危ぶまれているが、地区内の長谷集落においては、平成18年度からNPO法人プロジェクト南からの潮流と地域住民が都市住民との交流事業を中心とした共生協働事業に取り組んでいる。■「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業を利用し次の3つ取組を行う予定である。1.のほり窯を設置し、地域の陶芸家を中心に、地元から産出する粘土や清流、雑木を利用した陶器体験により、地域住民と都市住民との交流を図る。2.自然景観(稚児の滝周辺)や藩政時代の薩摩藩の坑口跡などの史跡を利用し、既存の錫山遊歩道と接する遊歩道やトレッキングコース等を整備都市住民との交流を促進する。3.大坂地区公民館と協働し、「これまで集落単位で活動をしてきたそれぞれの地域を結び付ける」運営意識を持つことを目的として自然木を活用した道標を

人材・組織区分 NPO

人材・組織名称 NPO法人プロジェクト南からの潮流

事業区分 国

事業内容 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業 H20年度

技術内容 新たな産業としてののほり窯設置

集落資産・資源1 自然 集落資産・資源2

集落資産・資源3 集落資産・資源4

集落資産・資源5

九州内外 内 地域分類 中山間地域

都道府県 鹿児島県 市町村 南さつま市

文献名

URL <http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/aratana-kou/katudou/No94.html>

画像ファイル名 102 プロジェクト南からの潮流